

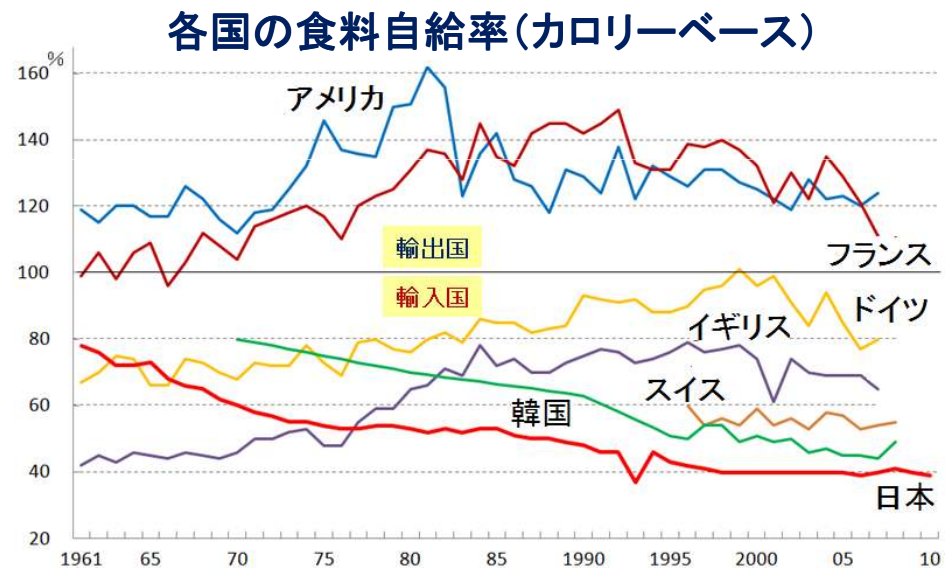
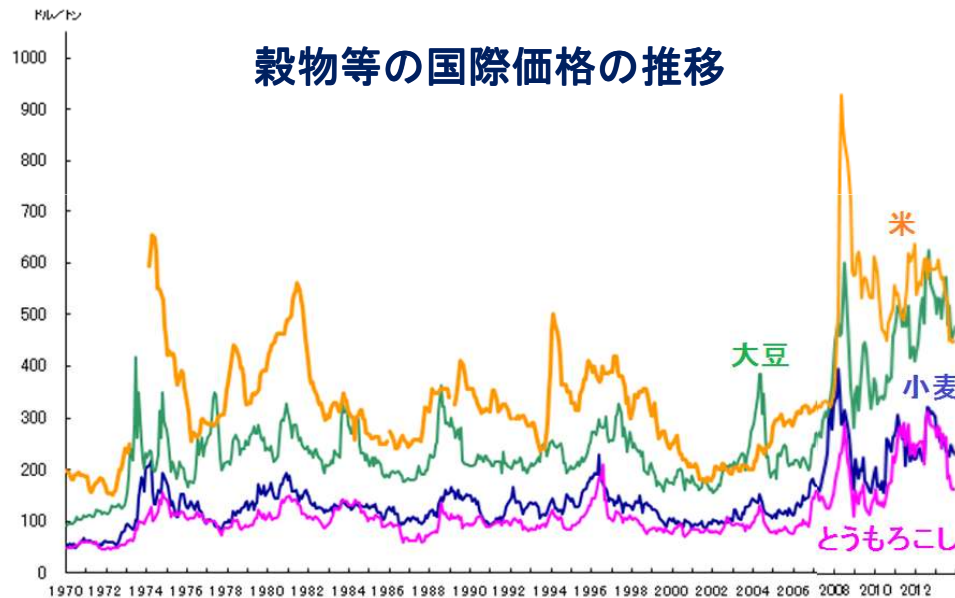
ゴマ01プロジェクトは地球を救う！？

私たちの「食」をめぐる世界と日本の「不都合な真実」

世界では **飢餓人口は8億4200万人(8人に1人)**

国際的な価格高騰

構造的な需給逼迫: バイオ燃料・新興国の所得拡大 ⇔ 気候変動



日本では **栄養バランスの崩れ、肥満の増加**

不安感の増大(信頼の低下)、大量の食品ロス

食料自給率の低下: 長距離輸送された輸入食料に依存

農業所得の減少、担い手の減少・高齢化、耕作放棄地の増加

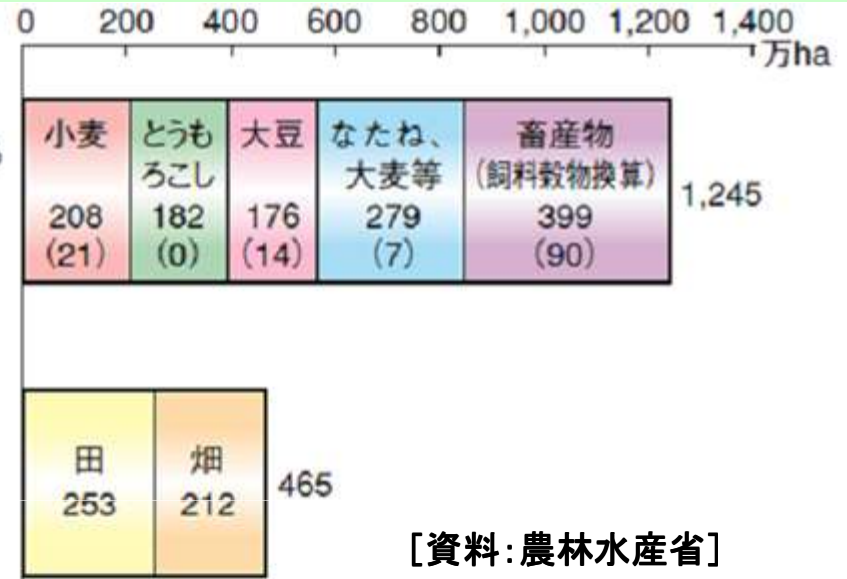
地球とつながる私たちの食

私たちの食生活が地球規模の環境や資源に与えている負荷

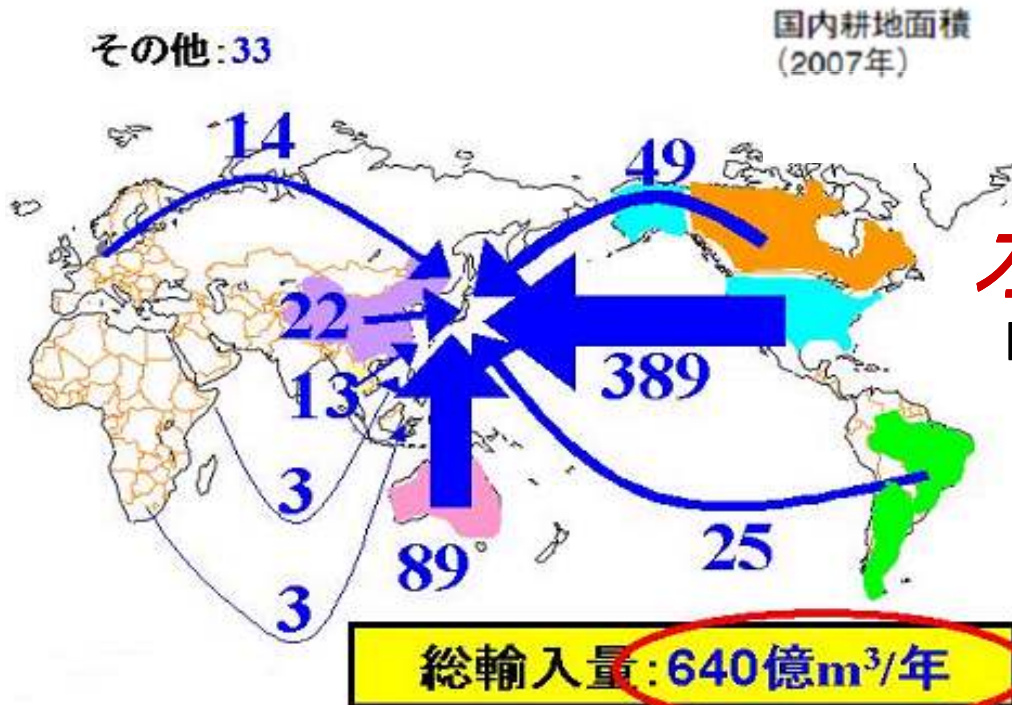
土地

国内農地面積の
2.7倍の海外農地に依存

海外に依存している
作付面積 (試算)
(2003~05年平均)



[資料:農林水産省]



水 国内の灌漑用水量以上の
「仮想水」(バーチャル・ウォーター)を輸入

地球温暖化

大量の輸入食料の長距離輸送に伴う
大量の二酸化炭素の排出
→ 突出したフード・マイレージ

[資料:東京大・沖大幹先生のグループ]

「フード・マイレージ」とは

○“Food Miles”運動

1990年代からイギリスのNGOが中心となって進めてきた市民運動。

「なるべく近くで取れたものを食べることによって、食料輸送に伴う環境負荷を低減。」

日本では、これを参考に農林水産政策研究所が主要国の輸入食料について計測・公表したのが最初(2003、次頁)。

○ 考え方、計算方法は単純

: 食料の輸送量に輸送距離を掛け合わせた指標。

単位:t・km(トン・キロメートル)



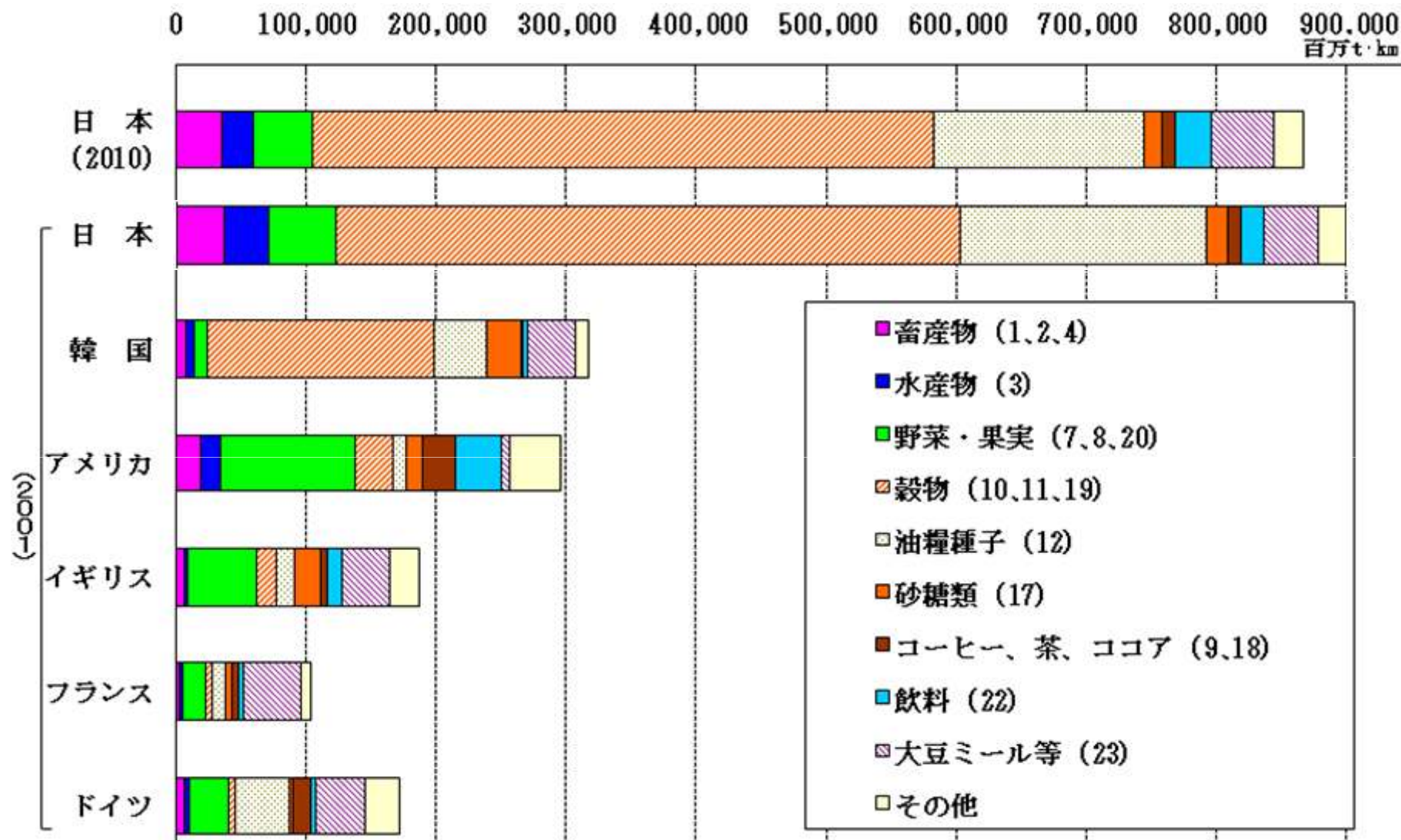
○ 特色 cf.食料自給率は距離の概念を含まず 食料の供給構造を物量とその輸送距離により把握

- ・ 食の安定供給、安全性の確保(トレーサビリティ)
- ・ 「食」と「農」の間の距離の計測
- ・ 食料の輸入が地球環境に与える負荷の把握



身近な日々の食生活が地球環境問題と関わっていることに気付くヒント。

輸入食料のフード・マイレージ (輸送量×輸送距離)



日本の輸入食料のフード・マイレージは、アメリカ、韓国等と比べても突出。長距離輸送された大量の輸入食料に支えられている私たちの「食」。

日本の食料輸入に伴うCO2排出量

16.9 百万 t

注: 輸送のみ。
冷蔵等による排出量は含まず。

(日本国内における食料輸送に伴うCO2排出量の **1.79 倍**)



一世帯当たり年間 約380 kg

家庭での取組の例

年間削減量

冷房を1°C高く暖房を1°C低く設定	: 約 33 kg	→ 約 12 年分
1日5分間のアイドリングストップ	: 約 39 kg	→ 約 10 年分
シャワーを1日1分家族全員が減らす	: 約 69 kg	→ 約 6 年分
1日1時間テレビ利用を減らす	: 約 14 kg	→ 約 27 年分

参考: 環境省パンフレット「身近な地球温暖化対策」(2007.4)

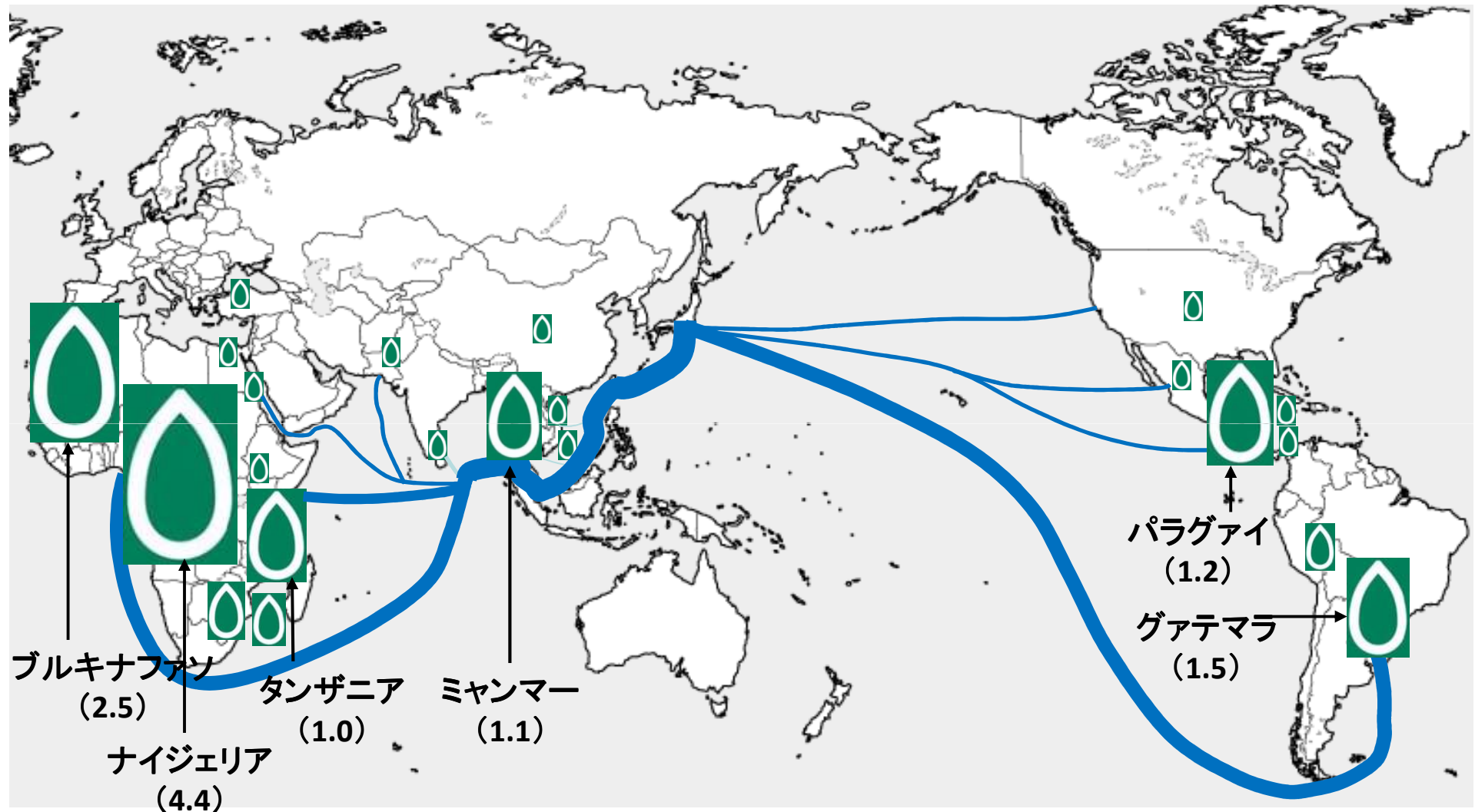
○ 「地産地消」のメリット

消費者サイド ① 新鮮で安価な食材の入手、② 「顔の見える関係」—安心感

生産者サイド ① 現金収入(少量多品種生産)、② 地域の活性化

更に、**輸送に伴う環境負荷低減** の面でもメリット。

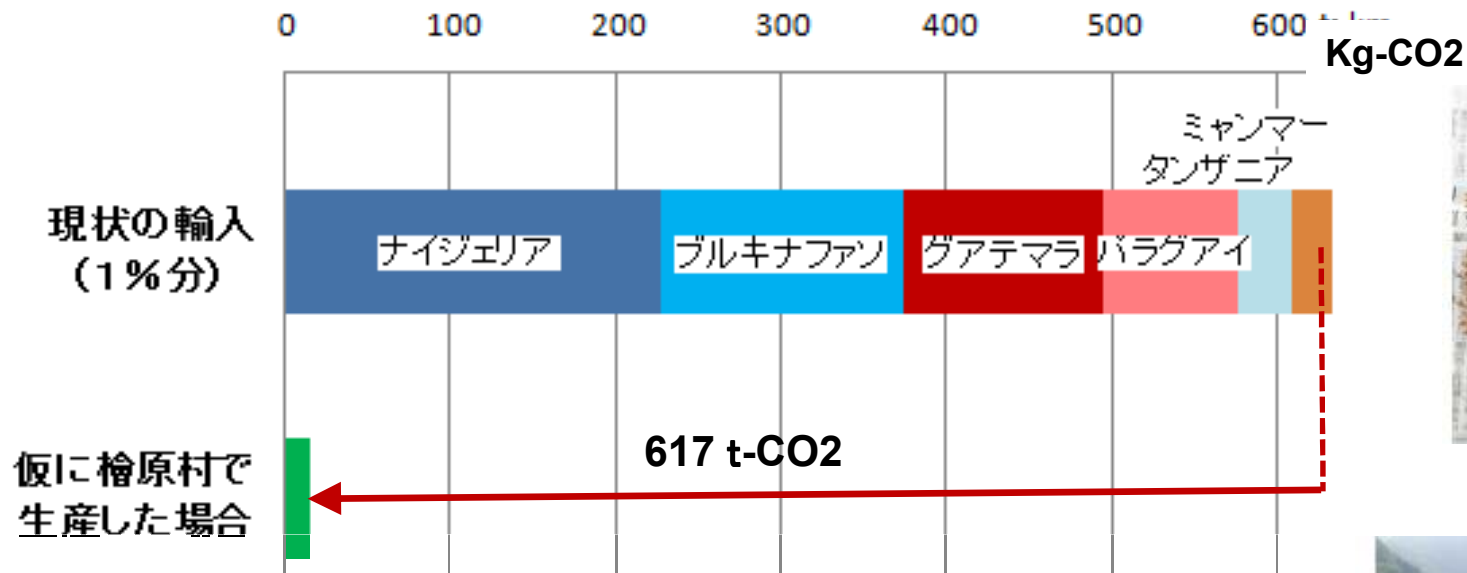
日本は世界中からゴマを輸入



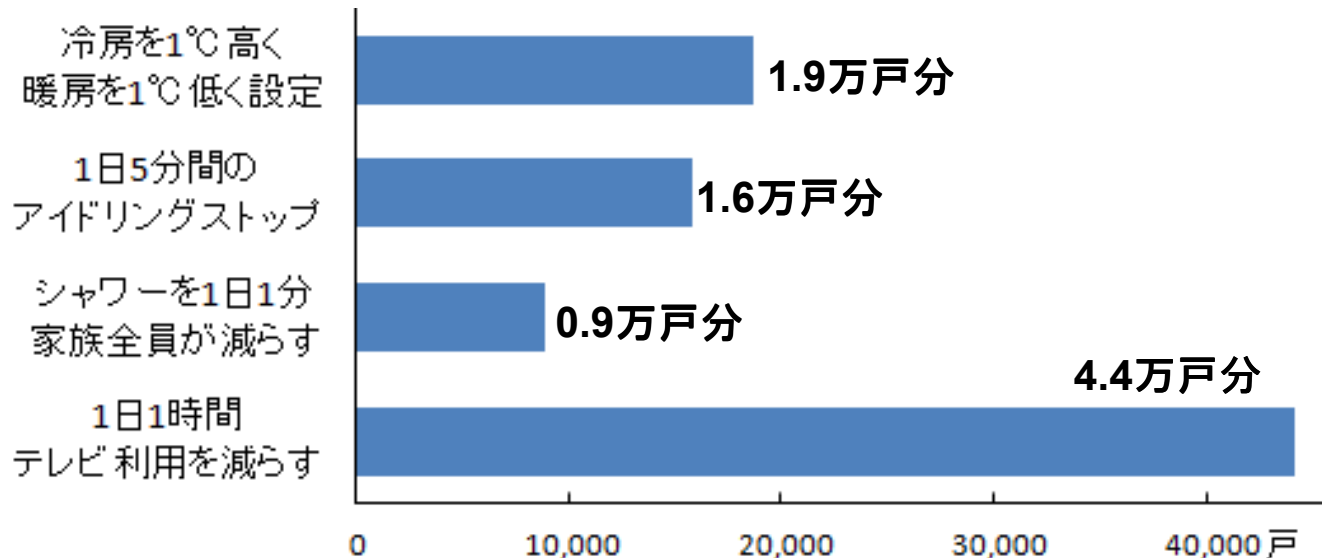
ゴマの輸入量(2013年、貿易統計) 合計 141,573 トン
フード・マイレージ 22億t・km、輸送に伴うCO2排出量 6.3万トン
自給率:0.1%以下

もしも輸入量の1%を檜原村で生産すれば？

フード・マイルージの削減効果



「家庭でのエコ」との比較



フード・マイレージの限界

1 輸送機関による環境負荷の違い

二酸化炭素排出係数(出典:国土交通省「交通関係エネルギー要覧」、平13・14年版)

営業用普通トラック	180	g-CO ₂ / t·km
鉄道	22	
外航船舶(バルカー)	10	
(コンテナ)	21	

➡ モーダルシフトの重要性



2 フード・マイレージは輸送面に限定された指標

生産や加工、消費、廃棄面での環境負荷は考慮せず。

: 例えば、粗放的に生産された食品を船で輸入すれば、国内で集約的に生産するより、トータルの環境負荷は小さくなる可能性。 ➡ LCA、カーボンフットプリント

フード・マイレージのメリット

: 概念、計算方法ともに分かりやすく、具体的な実践に結びつけやすい。

「気づきのきっかけ」に。

➡ 旬産旬消、なるべく食べ残しはしない。

東京・檜原村でゴマを育てる意味 (日本型スローフード運動 ?)



ゴマは食料の海外依存の象徴→自分たちで自給を都市と農村の格差の解消

でも、檜原村の耕作放棄地全てに作付けても20t程度

中田 哲也(博士・農学) E-MAIL ; foodmileage@jcom.home.ne.jp

ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」、ブログ、メルマガ

<http://members3.jcom.home.ne.jp/foodmileage/fmtop.index.html>